

こんにちは、博洋エージェンシーサービスです

◆◇6月の安全運転ポイント◆◇

雨の日は、雨滴がフロントガラスや運転席横の窓につくと、ワイパーで拭いても、外の視界が狭くなってきます。

雨の日の運転は、いつも以上に、歩行者の見落としにご注意ください。

そして夜間の道路横断者は、更に見落としがちです。

前方を照らす車の前照灯は、対向車の眩惑を防ぐ目的で少し左に偏っています。そのため右側の照射範囲が相対的に小さくなっています。

そしてヘッドライトが濡れた路面に乱反射すると眩しく、さらに見えづらくなり、歩行者を見落としがちとなります。

雨の夜はとくに、右側への注意を高め、速度を落として走行しましょう。



◆◇今月の安全運転ニュース◆◇

- ・自動車の検査と点検整備
- ・一般道路における雨天時の安全走行のポイント
- ・自転車の青切符対象の違反行為
- ・危険予知トレーニング
- ・雨の日の安全運転チェック

2024年における「整備不良車運転」での検挙件数を1日あたりに換算すると何件になるか、次の中から選んでください。

- ①約50件 ②約30件 ③約10件



TOKIO MARINE NICHIDO

自動車の検査と点検整備

自動車の不調は、故障や排出ガスの増加等だけでなく、事故につながることもあります。点検整備は法律でも「使用者の義務」と定められています。自動車を適切な状態に保つため、今月は自動車の検査と点検整備について理解を深めましょう。

整備不良が招く事故リスク

自動車の点検整備を怠り、不調や不具合を放置してしまうと、重大なトラブルや事故につながるおそれがあります。

各種液量の不足	ランプ類の不具合	タイヤの整備不良
ブレーキ液、冷却水、エンジンオイル等が不足した状態で走行を続けると…?	正常に点灯・点滅していない、損傷しているなどの状態で走行を続けると…?	空気圧不足、亀裂・損傷した状態で走行を続けると…?
ブレーキの効きが悪くなる、オーバーヒートを起こす、エンジンが停止するなど、走行不能に陥ったり危険を回避できなくなったりする可能性があります。	自車の動きを周囲に伝えることができず、接触等の事故につながる可能性があります。また、夜間も走行ができなくなります。	バーストする可能性があります。バーストするとハンドルがとられ、車を制御できなくなるおそれがあります。

点検の種類と車検の受検可能期間

自動車の検査や点検は、それぞれ頻度や目的が異なります。内容を理解して適切に実施しましょう。

	頻度	目的
車検	2年に1回実施 (新車は初回のみ3年に1回) ※一部の事業用自動車を除く	国が定める自動車の安全・環境基準をクリアしているかをチェックするための検査 ※車検証の有効期間内の安全性を保証するものではありません
定期点検	自家用乗用車は12ヶ月ごとと24ヶ月ごとに実施	故障等のトラブルを未然に防ぎ、その性能維持を図るために行う予防点検
日常点検	走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に実施(1ヶ月に1回以上)	劣化や消耗、損傷等をいち早く発見できるよう、車の状態を確認するために使用者自身の責任において実施する点検

国土交通省によると、月別の平均車検台数が約281万台であるのに対し、3月は約389万台と突出しており、予約が取りづらい状況や自動車整備士の負担が大きいことが問題となっていました(図1)。このような背景から、年度末における車検の混雑緩和と自動車整備士の働き方の改善のため、2025年4月1日に道路運送車両法施行規則等が改正されることとなり、「車検証の有効期間満了日の1ヶ月前から」とされていた車検の受検可能期間が「車検証の有効期間満了日の2ヶ月前から」に拡大されました。また、これに整合させるため自賠責保険の更新期間も拡大されています。車検は余裕をもって予約・受検するようにしましょう。

図1 月別の車検台数(2019年～2023年の平均)



出典:国土交通省 報道発表資料「来年4月より、車検を受けられる期間が延びます～年度末を避けて余裕をもって受検をお願いします～」より弊社作成

日常点検の15項目と車の異常を知らせる警告灯

日常点検は使用者(運転者)自身で行うことができます。不備、不足、不良等の異常が見受けられるときは、補充またはディーラーや整備工場へ相談をしましょう。

エンジンルームの点検

- ◆ブレーキ液 ◆冷却水
- ◆エンジンオイル
- ◆バッテリー液
- ◆ウインド・ウォッシャー液



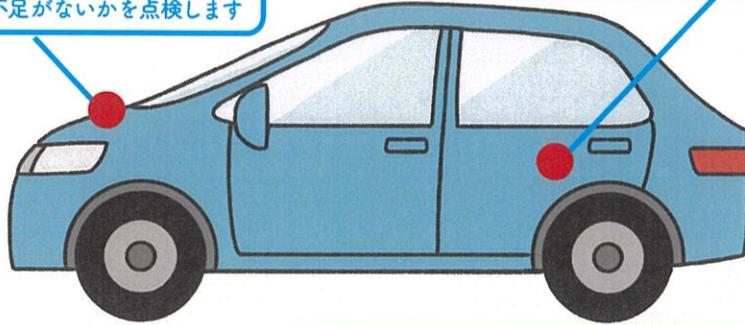
各種液量に過不足がないかを点検します

車の周りからの点検

- ◆ランプ類の点灯、点滅
- ◆タイヤの亀裂や破損
- ◆タイヤの空気圧
- ◆タイヤの溝の深さ

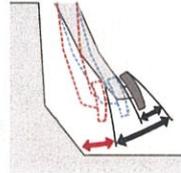


損傷や破損等の不良がないかを点検します

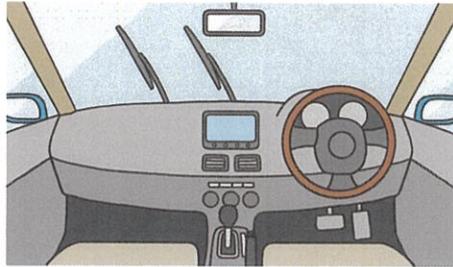


運転席での点検

- ◆エンジンのかかり具合や異音
- ◆ウインド・ウォッシャー液の噴射状態
- ◆ワイパーのふき取り能力
- ◆ブレーキペダルの踏み残りしりと効き具合
- ◆パーキング・ブレーキの引きしろ(踏みしろ)
- ◆エンジンの低速・加速状態



正常に作動するかを点検します



*詳しい点検の方法や確認事項は、国土交通省が発行しているチェックリストを参考にしてください。

国土交通省ウェブサイト https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha/tenkenseibi/images/t_checklist.pdf

車には、様々な異常を知らせるサインとして警告灯があります。特に赤色の警告灯は重大なトラブルが発生していることを示していますので、速やかに点検・修理をしましょう。

ウォッシャー液警告灯	エンジン警告灯	充電警告灯	油圧警告灯	高水温警告灯(赤)
ウォッシャー液が不足しています	エンジンやトランスミッションシステム等に異常があります	バッテリーや充電システムに異常があります	エンジンオイルの異常やオイル漏れの可能性があります	オーバーヒートを起こしている可能性があります

★ 車検、定期点検、日常点検は必ず実施するようにしましょう

★ 車検は余裕をもって予約・受検するようにしましょう

★ 異常箇所があるときや警告灯が点灯しているときは速やかに対処しましょう

今月のクイズの答え

①約50件 年間の検挙件数は19,246件でした。

出典:警察庁「交通死亡事故の発生状況及び道路交通法違反取締り状況等について(2024年)」より

ご用命・ご相談は...

〒174-0043 東京都板橋区坂下3-37-8
株式会社 博洋エージェンシーサービス
TEL03-3967-2792 FAX03-3967-2977



東京海上日動

URL www.tokiomarine-nichido.co.jp
担当営業課

インターリスクニュース

人車 <道路>

6月の安全運転のポイント

2025年6月号

雨天時は、視界が悪くなるうえに路面が滑りやすいなど、悪条件が重なるときですが、一般道路と高速道路では発生しやすい危険や注意すべき点が異なる面があります。そこで一般道路と高速道路における安全走行のポイントについてまとめてみました。



一般道路における雨天時の安全走行のポイント

雨が降り始めたら速度を落とす

雨の降り始めの舗装道路は、路面の土ぼこりや砂がオイル状になり、油をひいたような状態になるため滑りやすくなります。また、濡れた路面はブレーキをかけてから車が停止するまでの距離が乾いた路面よりも長くなります。雨が降り始めた時は、すぐに速度を落とすとともに、前車との車間距離をいつもより長くとりましょう。

傘を持たない歩行者や自転車の動きに注意する

雨が降り始めると、傘を持たない歩行者は濡れるのを避けるため、早く目的地へ行こうとしたり、適当な場所で雨宿りしようと先を急ぎがちです。そのため、車に対する注意が薄れてしまい、十分な安全確認をしないまま道路を横断しようとしたり、自転車の場合は後方の確認をせずに進路を変更しようとする場合があります。前方に傘を持たない歩行者や自転車を見かけた時は、その動きに十分注意しましょう。

左折時や進路変更時は後方をよく確認する

雨天時は、フロントガラスやドアミラーに水滴が付着するため視界が悪くなります。特にドアミラーの場合は、フロントガラスのようにワイパーで拭うということができないことに加えて、側方ガラスにも水滴が付着しているため、非常に見えにくくなります。そのため、特に左折時や進路変更時に、後方から接近してくる車体の小さい二輪車や自転車の発見が遅れることがあります。左折時や進路変更時はドアミラーを見るだけでなく、振り向いて自分の目でしっかり後方を確認しましょう。

なお、雨天時は傘をさした歩行者の視界も悪くなります。特に風雨が強く傘を傾けて歩いている時や、足元の路面を気にしながら歩いている時は、ほとんど周囲の状況が見えない状態になることがあります。歩行者の側方を通過するときは十分な側方間隔をとるか、徐行しましょう。





高速道路における雨天時の安全走行のポイント

標識等による規制速度を守る

高速道路では、天候や道路工事、交通事故など交通環境の変化に応じて最高速度が規制されます。雨天時も降雨の状況に応じて速度が規制され、通常時は最高速度が時速100キロの区間でも時速80キロ以下になります。雨天時に走行する時は、可変式の数値規制標識や電光掲示板などに注意し、速度が規制されている時は必ずそれを守って走行しましょう。雨天時の高速道路でスピードを出し過ぎると、路面にできた水の膜のうえを水上スキーのようにタイヤが滑走して、ハンドルもブレーキも効かない「ハイドロプレーニング現象」が発生する危険がありますので、十分な注意が必要です。

また、高速道路では前車のはねる水しぶきをまともに浴びると、前方が何も見えない状態になることがあります。前車の水しぶきがかからないだけの十分な車間距離をとって走行しましょう。



進路変更や追越しはできるだけ控える

進路変更や追越しをする時はハンドル操作を伴いますが、濡れた路面を高速走行している時は、ハンドル操作のちょっとした操作ミスがスリップや横転などの事故につながります。雨天時に高速道路を走行する時は、できるだけ進路変更や追越しは控えるようにしましょう。



長いトンネルの出口では天候の変化に注意する

高速道路には長いトンネルが多くあります。長いトンネルでは、入口では晴れていても、出口では雨が降っていることがあります。しかも、トンネルの出口の先は下り坂やカーブになっている場合も少なくありません。入口では晴れていたから出口も晴れていると思い込むと、出口を出たとたんに危険な状況に陥るおそれがあります。トンネルの出口に近づいたら、トンネルの出口の天候をよく確認し、雨の場合は速度を落としましょう。

十分な視界が確保できない時は待避して様子を見る

激しい雨でワイパーを最速にしても十分な視界が確保できない時は、無理に走行を続けるのではなく、早めに最寄りのサービスエリアやパーキングエリア等の安全な場所に一時待避して様子を見るようにしましょう。



「お問い合わせ先」

株式会社 博洋エージェンシーサービス
〒174-0043 東京都板橋区坂下3-37-8
TEL(03)3967-2792 FAX(03)3967-2977

自転車の青切符対象の違反行為

近年の自転車による交通事故の増加を受け、警察庁は4月24日正式に自転車の交通違反に対する「青切符」制度が2026年4月1日から施行されることを発表しました。5月24日までパブリックコメントを募集しています。

★概要

- 施行日：2026年4月1日
- 対象者：16歳以上の自転車利用者（原付や電動キックボードの運転が可能な年齢に合わせ設定）
- 対象違反：113種類の違反行為（重大事故につながる違反を重点的に取締り）
- 自転車は運転免許不要の車両であるため、違反点数の対象外

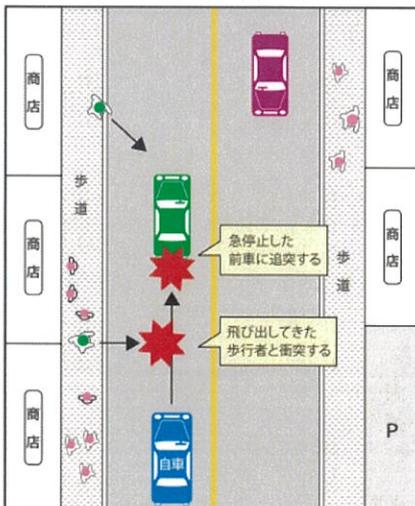
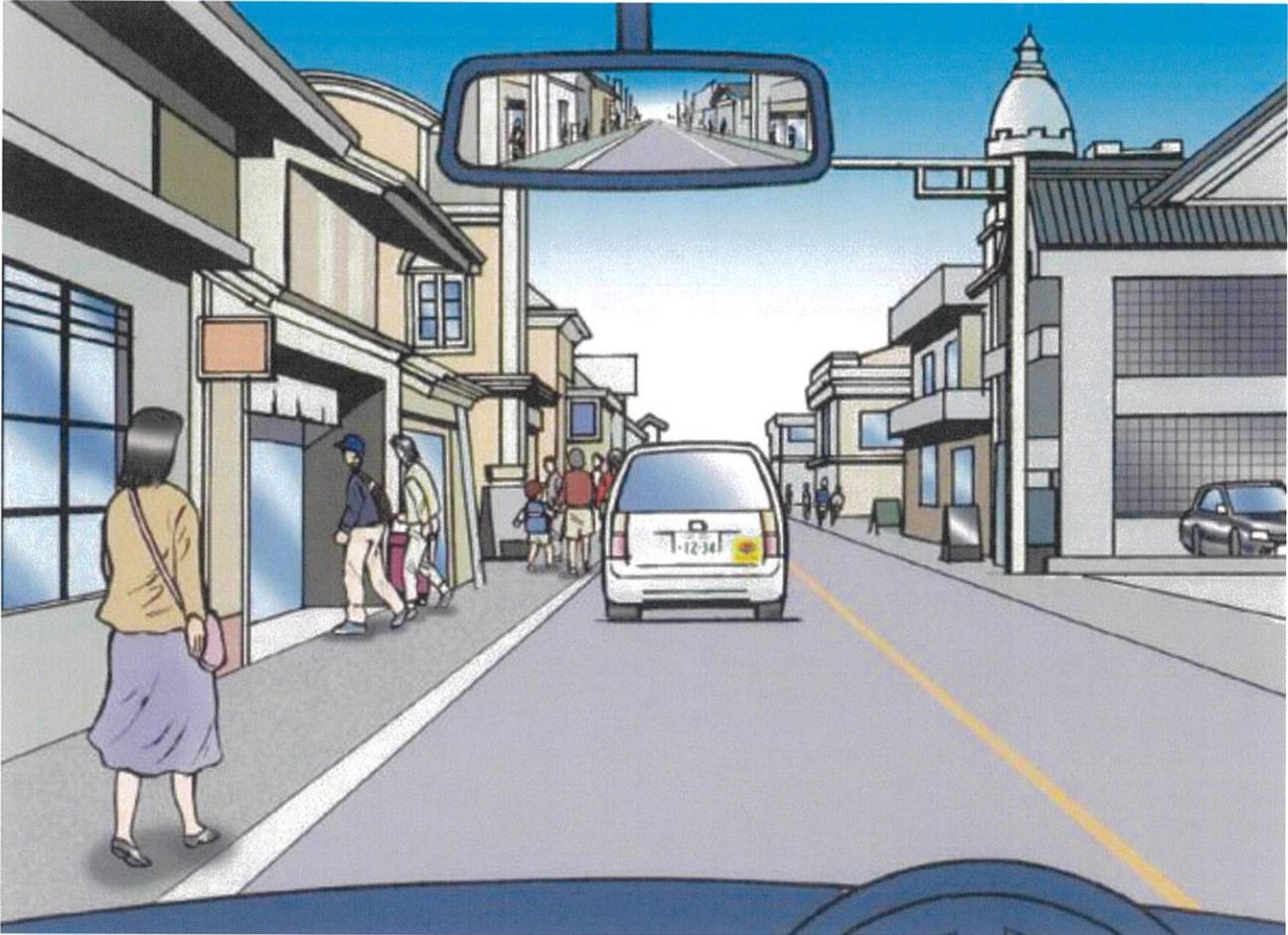
★主な違反と反則金額

違反行為	取り締りする理由 ほか	反則金
スマホのながら運転 	スマホのながら運転は、まわりが見えにくくなり危険で、とっさの対応もできず事故につながるが多い。手に持つ、操作する、画面を注視するなどが取り締りの対象となります。	1万2千円
信号無視・逆走 	信号無視や車道を逆向きに走る「逆走」は交通の流れを乱す危険な行為で、とくに交差点では大事故の原因にもなります。赤信号で進行する、進行方向と逆の車線を走る、歩行者信号が青だからといって横断する（車道走行中は違反）	6千円
傘差し運転・イヤホン 	片手で傘を差していたり、音楽を聴きながら運転したりしていると、運転操作の遅れや音が聞こえず危険を察知できないことがあり事故のリスクがとても高くなります。傘を差して片手運転、イヤホンで音楽を聴きながら走行、音漏れでまわりが聞こえない状態などが対象となります。	5千円
二人乗り・並走 	二人乗りや並んで走る行為は、バランスを崩しやすく、周囲との接触事故につながりやすいです。狭い道や通学路での接触事故を招きやすく、不意に事故が起きる原因になります。友達と並んでしゃべりながら走る、小さな子を自転車のカゴにのせる、一人用の自転車に二人で乗る行為などが対象となります。	3千円

危険予知トレーニング

観光地の片側1車線道路を走行しています。前方にはレンタカーが走行しており、歩道にはたくさんの観光客がいます。自車はこのまま進んでいきたいのですが・・・。

★このような場面にひそむ危険要因を挙げ、この場面での安全な運転方法について考えてみましょう。



【模範解答】

① 飛び出してきた歩行者と衝突する。

- 観光地の歩行者は店や景色に目が向いて、車への注意が希薄になっている場合があります。道路を横断しようと飛び出してくることが考えられます。
- この場面では、歩行者の動静に注意して、減速して走行しましょう。

② 急停止した前車に追突する。

- 観光地に不慣れな前車（レンタカー）が、飛び出してきた歩行者等におどろいて急ブレーキを踏むことが考えられます。
- 前車の急な動きを予測して車間距離を十分にとりましょう。観光地の風景に気をとられないように注意して運転しましょう。

雨の日の安全運転チェック

雨の日のクルマは、窓の曇りや油膜、他のクルマが跳ね上げた水しぶきなどで、車外の様子が確認しづらくなります。また、晴れた日に比べて制動力が低下するなど、注意すべき点がたくさんあります。雨天時の運転で気を付けたいことをチェックしてみましょう！

【出典】月刊自動車管理

◇ 運転前のチェック項目

- 気象条件を確認している
- ワイパーは正常に作動している
- タイヤの摩耗・空気圧をチェック



◇ 運転中のチェック項目

- 速度を抑えて、十分な車間距離をとっている
- 昼間でもライトを点灯している
- 歩行者や自転車に注意している



◇ 豪雨時のチェック項目

- 早めの避難を心がけている
- アンダーパスは迂回する
- 万一の水没に備えて、脱出用ハンマーを搭載している



雨天時の事故件数は、晴天時に比べ約4倍増えることがわかっています。普段よりも慎重な運転を心がけましょう！